11　自主防災組織を作ろう

阪神・淡路大震災では、地震発生直後の住民による救出活動など住民活動の重要性が教訓となりました。「自分たちの地域は自分たちで守る」という気持ちで、日頃から役割分担を決めたり、訓練を実施し災害に備えましょう。

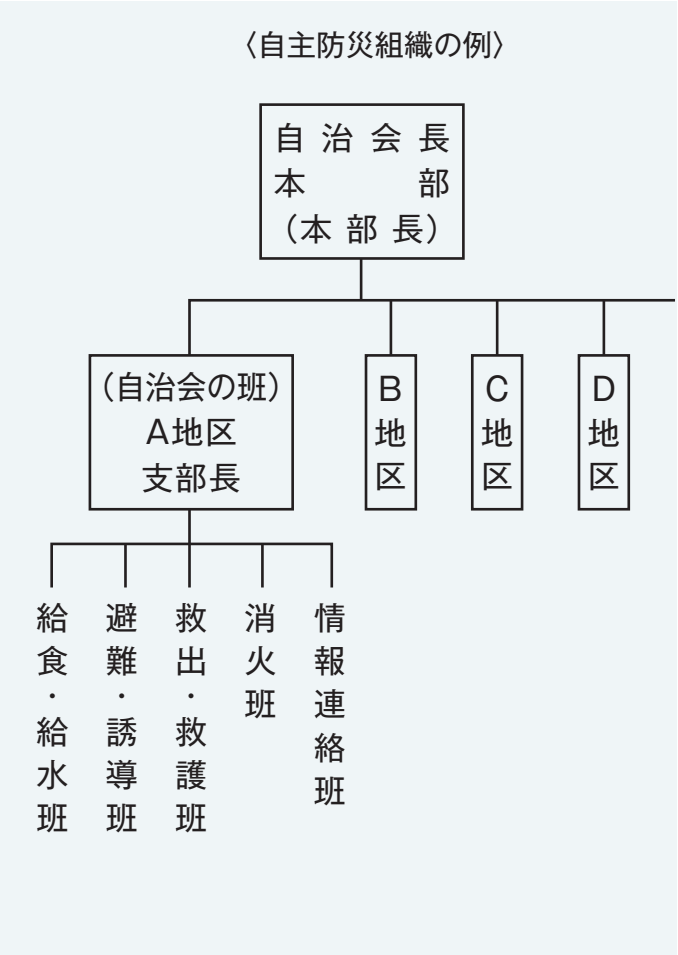
自主防災組織とは

地域住民が自主的な防災活動を行う組織です。日常的には、防災知識の普及啓発、防災訓練や地域の防災安全点検の実施、防災資機材の備蓄・点検といった活動に取り組みます。

また、災害時には、初期消火、住民の避難誘導、負傷者の救出・救護、災害情報の収集・伝達、給食・給水活動などを展開します。

住民が連携し、協力しあって、地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割となります。

○自主防災組織の構成例



○情報連絡班

防災関係機関やテレビ・ラジオなどから災害情報を集めたり、地域の被災情報をまとめます。

○消火班

消火器、可搬式消防ポンプなどにより消火活動を行う。

○救出・救護班

建物の下敷きになった人や、落下物等によるけが人を救出し応急手当を行う。

○避難・誘導班

火災の拡大や津波、がけ崩れなど災害の危険がある場合は、住民を避難させる。

○給食・給水班

備蓄食料や避難所での食料配分や、貯水槽の水を配る。

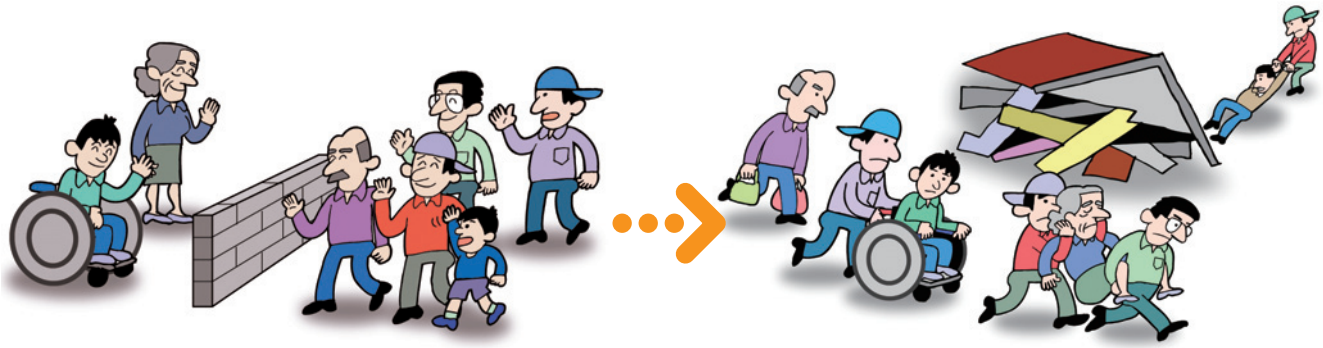
12　ふだんからの地域のつながりが大切です

私たちはお年寄りや障がいのある方など※を支援するために何ができるのでしょうか？

　阪神・淡路大震災で、家の下敷きになった人々の多くを助け出したのは、家族や近所の人たちでした。大規模災害時の救助や避難などには、ふだんの近所つきあいが力を発揮します。

　また、お年寄りや障がいのある方など災害に弱い方々の立場にたった心配りが大切になります。

※このような方を「災害時要援護者」ということもあります。



ふだんからお互いに声をかけあうと　　いざというとき、助けあえる

　町内会や自治会が中心となって開催される行事で、地域の防災に関する取り組みを知ることができます。また、参加型の防災訓練では、安否確認や救出・救護、炊き出しや避難訓練、避難所生活などを体験できます。

避難所生活を体験してみる

みんなで救護の手順を学ぶ

ご近所で炊き出しの訓練

みんなであるいて避難訓練

１３　大震災から学ぶこと

阪神・淡路大震災での被災経験から、学ぶべきものは多くあります。ここでは震災体験を抜粋し掲載します。

飲料水

- 飲料水を確保するため、庭の水道栓の近くにバケツを置いて毎日水を満パイにしていた。火災予防・初期消火が主目的であったが飲料水として役立った。　（兵庫区、男性）

生活用水

- 震災という大きな災害にあった時に、普通に生活している時には絶対思い付かなかった知恵がありました。まずお風呂の水がこんなに役に立つとは思ってもみなかったです。たまっていた水をトイレなどに使用し、なくなったら水をもらってきてお風呂にためて使用していました。　（須磨区、１９歳、女性）
- 震災前は一戸建ての家に住んでいましたが、その頃から雨どいを地面よりいくらか上で切り、その下にバケツを置いて雨水などをため、植木等の水やりに利用するようにしていました。地震の時、１日分くらいのトイレなどの水は、そのバケツの水で賄えましたし、雨が降ればバケツ何杯分もの水が簡単にたまりました。ささいなことですが、とても簡単で水の節約にもなることですので、ためされてはいかがかと思います。　（須磨区、３７歳、女性）

食料・食器

- 食器は、食器洗い機の中に入っていたいつも使っている安い食器以外はほとんどわれてしまったので、カップラーメンのカップを食器の代わりにして、そこにサランラップをひいて何度も使えるようにしてご飯を食べていました。私は今、このような知識や体験を決して忘れることはないと思います。　（須磨区、１９歳、女性）

準備するもの

- 私は山登りが好きなため、常に最低限の必要品（懐中電灯・手袋・非常食・くすり一式・食器など）をリュックサックに入れているので、地震の時すぐにとり出し使用することが出来た。　（東灘区、５７歳、男性）

置き場所

- 今回の震災で、非常用品を押し入れ等に保管しておくことの無意味さを知らされた。時間的に余裕のある災害にはいいのだが、今回のように一瞬にして家具が総崩れになった場合には、いったん外へ避難し、再び中へ入ろうにも何がどこにあるのか分からない状態であった。そこで、出入口付近の下駄箱または郵便受けに最低必要な物を置いておくことにした。

（中央区、５２歳、男性）

住まいの安全

- 倒壊していた古い家の柱は、白蟻に食われていた場合が多かったので、白蟻には普段から気をつけておく。

（垂水区、４３歳、男性）

電気 ガス

- それまでは、カセットコンロは持っていませんでした。しかし、あの時父母にいただいたコンロは、非常に役に立ちました。今も使っています。　（長田区、５０歳、女性）

その他に役に立ったもの

- キャンプ道具一式。雨でも風でも、役にたつように日頃思っていたことがずばり役に立ったことが今の私の自慢です。

（中央区、６０歳、女性）

■おわりに■

全国に2，000もあるといわれる『活断層』について、現時点で全てが解明されているわけではありません。しかし、「過去にどんな規模の地震を起こしてきたのか」、そして「今後の可能性はどうなのか」といったことを探ることはできます。地震をなくすことはできませんが、被害を最小限度に抑えることは可能です。いたずらに恐れることなく、身近なことから地震に対する備えはできるはずです。

平成16年新潟県中越地震、平成19年新潟県中越沖地震、平成20年岩手・宮城内陸地震と近県でも大規模地震が頻発しています。阪神・淡路大震災の教訓を風化させることなく役立てて、地域をあげて『減災』に努めましょう。

あなたの無事を伝えましょう

災害発生時には、**被災地の外から**被災地に向けては**電話をしないよう**に、みんなで心がけましょう。大事なのは、被災地側から、無事を伝えることです。

無事の知らせは、『被災地の外側』でリレーで伝えるようにしましょう。

どの連絡方法を利用するかを家族みんなで決めて、使い方を覚えておきましょう。

「災害時の電話利用方法」(社)電気通信事業者協会：http://www.tca.or.jp/infomation/disaster/index.html

	１７１ 災害用伝言ダイヤル	ケータイ 災害用伝言板サービス	ｗｅｂ１７１ 災害用ブロードバンド伝言板
被災地	メッセージを録音	伝言の登録	伝言情報の登録
被災地外	メッセージを再生	伝言の確認	伝言情報を見る

活断層インフォメーション

活断層や地震に関する情報は、次のホームページからもご覧になれます。

- 山形県のホームページ　http://www.pref.yamagata.jp
- こちら防災やまがた！　http://www.pref.yamagata.jp/bosai/
- 地震調査研究推進本部ホームページ　http://www.jishin.go.jp/main/index.html
- 内閣府防災情報ホームページ　http://www.bousai.go.jp/index.html
- 気象庁ホームページ　http://www.jma.go.jp/jma/index.html
- 消防庁ホームページ　http://www.fdma.go.jp/

防災学習館

地震体験・消火体験・煙避難訓練などいろいろな体験ができます。

場　　所：三川町大字横山字堤２７－１　山形県消防学校敷地内
開館時間：９:３０～１６:３０　休館日　月曜日(祝日の場合は翌日)、12月２８日～１月４日
問合せ先：ＴＥＬ　０２３５－６６－４６２６

発行／山形県総務部危機管理室総合防災課　ＴＥＬ023-630-2231・2255
資料提供／文部科学省、内閣府、全国家具金物連合会